



講演風景

トイレ産業展 Toilet Topics クリーンフォーラムにてトイレ診断士が講演 「トイレ診断から見る公共トイレ/ 公衆トイレネーミングライツの取り組み」

2015年11月26日から3日間、東京ビッグサイトで開催されたトイレ産業展の会場内セミナー「クリーンフォーラム」にて、厚生労働省認定 社内検定トイレ診断士1級の内田康治が、トイレ診断から見る公共トイレと公衆トイレネーミングライツの取り組みについて講演しました。

実際に公共トイレの診断をしていると、汚い、臭い、暗い、壊れているといった様々な問題を抱えたトイレがあります。なぜこういった状況が起こるのでしょうか。まず、「管理者がトイレの問題に気付いていない」ということが挙げられます。次の段階として、問題に気付いたとしても、「どう解決していいかわからない」「トイレの問題にかけると予算や時間がない」ということがあります。また、「清掃レベルに個人差があるためトイレの清掃品質が一定でない」という状況もあります。こうした課題を解決することが、トイレをさらに快適にする方法だと思えます。

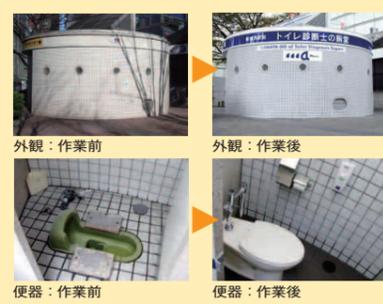
第2部では、2011年から当社が行っている新横浜駅北口の公衆トイレのネーミングライツの事例をお話します。こちらでは、ネーミングライツの契約料は一切お支払いしていません。そのかわり、トイレの改修・リフレッシュ作業や、快適に維

持管理する『役務』を提供しています。導入にあたっては、壁面やガラスの洗浄、塗装、床のタイルの張替え、LED照明への交換、便器や排水管の洗浄、和式便器から洋式便器への交換などを行いました。

さらに、尿石防止剤や消臭剤、便座除菌クリーナーも設置しています。こうしてきれいにした状態を維持するために、月一回の診断管理とパトロールを実施しています。また、トイレの快適性において重要な役割を果たしている日常清掃に従事する方への清掃指導も行っています。その方は、他の公衆トイレの清掃も担当しているため、ネーミングライツを行っていない公衆トイレに対しても波及効果があり、横浜市の方からも喜んでいただいております。

公衆トイレネーミングライツの取り組みは、契約する企業としては、「自社の名前を付けたトイレ

が汚ければ逆にイメージダウンに繋がる」「宣伝効果が見込めるのか」といった課題があります。私どものようなトイレメンテナンスを専門で行う業者に依頼したり、収益の見込める事業とのセット契約にするなどしていけば、今後公衆トイレネーミングライツも広がっていくのではないのでしょうか。



外観：作業前

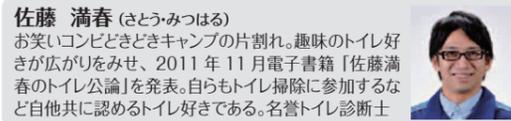
外観：作業後

便器：作業前

便器：作業後

トイレ診断士 芸人 第2回

佐藤満春のトイレな話 シーズン2 I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! I LOVE TOILET! トイレバンド結成!



佐藤 満春 (さとらみつはる)
お笑いコンビどきどきキャンプの片割れ。趣味のトイレ好きが広がりをみせ、2011年11月電子書籍「佐藤満春のトイレ公論」を発表。自らもトイレ掃除に参加するなど自他共に認めるトイレ好きである。名誉トイレ診断士

皆さんこんにちは! 「名誉トイレ診断士」佐藤満春です。皆さんは「トイレの歌」を何曲ご存知ですか?? 某検索サイトで曲名に「トイレ」とつくものを調べてみました。「トイレの神様」(植村花菜)は今現在一番多くの人を知っているトイレソングかもしれません。そして僕のライブの出陣にもなっているSMAPさんの「トイレットベッパーマン」。そしてお子さんがいる方にはメジャーであろう「トイレでスー」(うーたん(間宮くるみ)他)など、どの曲もトイレをコミカルに、そして哀愁を曲にのせて表現された素晴らしい歌ばかりです。



サトミツ&ザイトレッツ

そんな中、トイレソング界に一石を投じるバンドが結成されました。「サトミツ&ザ・イトレッツ」です。そうです、サトミツとは僕のことで。メンバーは、キンモクセイの佐々木良、伊藤俊

吾、GOMES THE HITMANの山田稔明、元くるりの森信行、元ゲントウキの伊藤健太、というかなり本格派のミュージシャンを集めた素敵なバンド。このバンドでは、トイレのすばらしさを歌ったり、トイレを綺麗にしていこう! という啓発的な歌を歌っています。また、小学生(特に男子)が学校でトイレを我慢せずに行く歌など、トイレ界の問題に鋭くメスを入れる曲たちを生み出し

ています。現在、「あしたトイレに行こう」「ノートイレットノーライフ」「KUSOしてみて」の3曲があります。

なぜこんなバンドを結成したかという、歌でしか届けられないものがあると思ったからです。僕は歌も歌えませんし、曲も作れません。楽器もほとんどできません。そこで、友人(ほとんど先輩です)の手を借りたということなのです。

先日11月10日のトイレの日にお披露目ライブを開催し、持ち歌3曲で2時間のワンマンライブをやったのけました。いつかこの歌をひっさげで小学校にライブに行きます。そして必ず小学生が学校でトイレに行きやすい文化を作っていきます。今後、トイレを起点に色々な展開を見せよう! 皆さん、今後のサトミツ&ザ・イトレッツの動きにご注目くださいませ!

編集後記

今回は公衆トイレの話題が多くなりました。公衆トイレというと、「なるべから入りたくない」というイメージでしたが、自治体の努力によって快適な公衆トイレも増えているんだと感じました。トイレのネーミングライツは、自治体は「住民サービスの向上」、企業は「宣伝効果」、利用者は「トイレがきれいになって利用しやすい」という、win-winの関係を超えて、みんながうれしい「Total Win」な事例なのではないでしょうか。(セルベッチオ中嶋)

Information!

SCビジネスフェアに出展します!
ショッピングセンターの関係者が一同に会するSCビジネスフェアに今年も出展します。プレゼンテーションセミナーでは、SCのトイレの維持管理と節水について講演します。是非お越しください。
●日時: 1月20日(水)~22日(金) 10:00~18:00(最終日のみ17:00まで)
●場所: パシフィコ横浜展示ホール ●入場: 無料



あなたの町のアメニティネットワーク
アムニティ本部フリーダイヤル 0120-57-1110

トイレを楽しくする新聞
かわや版
KAWAYABAN
2016 新年号 Vol.59

特集 【渋谷区土木清掃部】 区役所前トイレ診断士の廁堂を含む

公衆トイレネーミングライツ事業が日本トイレ大賞を受賞!

有村女性活躍担当大臣の下、トイレ空間やトイレに関する活動の好事例を表彰する「日本トイレ大賞」。昨年9月、「渋谷区役所前トイレ診断士の廁堂」を含む公衆トイレネーミングライツ事業で、渋谷区土木清掃部が日本トイレ大賞を受賞いたしました(応募総数378件、大賞28件)。今回は渋谷区土木清掃部、緑と水・公園課の吉武成寛課長と荒井拓也主事にお話を伺いました。



▲日本トイレ大賞授賞式の様子



▲渋谷区土木清掃部 緑と水・公園課 吉武成寛 課長 荒井拓也 主事

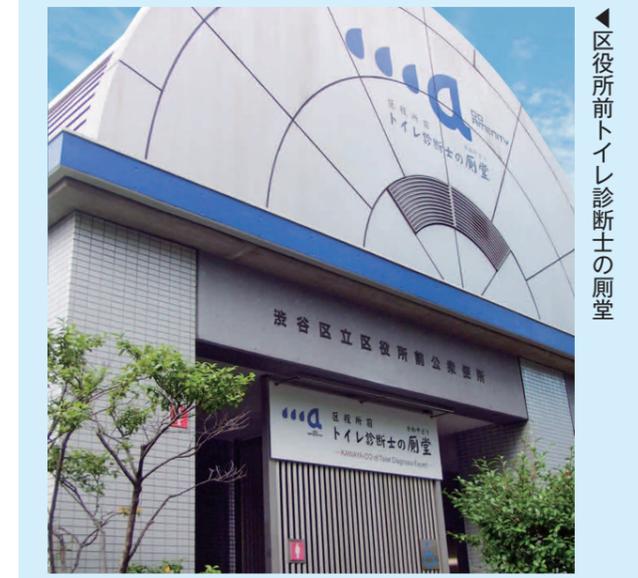
渋谷区では、2009年に全国に先駆けて公衆トイレのネーミングライツ(施設命名権)事業を始めました。過去、コンサートホールや競技場などの大型のネーミングライツはあったものの、景気の低迷や区の財政面も苦しい中で「中小企業でもできる」「命名権の対価を役務提供とする」という新しいコンセプトで、前代未聞の公衆トイレのネーミングライツがスタートしました。

現在では、全国初の契約となった「区役所前トイレ診断士の廁堂」を含む区内7箇所の公衆トイレ命名権を企業に提供し、新たな財源を確保するのはもちろん、トイレの設備改善や維持管理など、企業の持つ専門知識や技術を導入し、利用者や区民へのサービス向上を図っています。

今回の日本トイレ大賞の受賞に対し、緑と水・公園課の吉武成寛課長は「民間でトイレの取り組みはいろいろあったが、地方自治体の地域活性化等に向けた取り組みという部分で評価されたのではないかと」これまで見

きもされなかった公衆トイレがネーミングライツの導入で注目が集まり、関心が向けられたことで、以前よりもきれいに保てることを期待している」と語っています。また、日本トイレ大賞の受賞によって、他の自治体からの問い合わせも増えているようで、今後公衆トイレネーミングライツは全国的にさらに広がっていくかもしれません。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催も控え、観光都市としてますます国内外に向けてのおもてなしが必要な渋谷区では、今年度7箇所の公衆トイレネーミングライツを選考中です。また、区内に約70箇所ある公園のトイレでも環境改善に向けた新しい取り組みができないか検討を行っているということです。「公衆トイレを快適に維持するにはまだまだ課題も多いです。渋谷を訪れた人が、『トイレがきれい、また行ってみたい』と思ってもらえるような公衆トイレにしていきたい」と今後の抱負を語っていただきました。



▲区役所前トイレ診断士の廁堂



▲廁堂内部の標語に「感動した!」という区民の声が寄せられたことも。



▲「恵比寿KANSEIトイレ」。地域のシンボルである恵比寿様をデザインにあしらった。



▲Webアニメ「スシニンジャ」のキャラクターが壁面に描かれた「神宮前一目スシニンジャトイレ」。



▲「神宮前シブミックトイレ」では、命名企業の製品がトイレ内に設置されている。

文献に学ぶ「トイレ文化」



このコーナーでは、「トイレ文化」に注目し、トイレに関する興味深い文献をご紹介します。

第18回

トイレ学大辞典

公衆トイレのメンテナンス

日本全国にどれくらいの公衆トイレがあるのか。詳細を掌握している諸官庁はない。結局は、個々の施設を所有管理する自治体に一つずつ確認していくしかない。全国の主要都市・観光地・道の駅・海の駅から把握できているだけでも21,720ヶ所のトイレが存在する(ラムゼス調査)とあるが、日本全国での実数はこの倍以上あると思われる。

どの自治体でも共通していることは、快適なトイレの提供であり、その目的も使命もほとんど変わることはない。

公衆トイレが「臭い・汚い・暗い・怖い・壊れている」の4K・5Kと言われるようでは、利用者はもちろん、近隣の居住者・住民にとって「大迷惑施設」の典型となる。当然、4K・5Kからの脱却と問題解消力が、公衆トイレメンテナンスのポイントでもある。



▲1988年4月に建設されたトイレ

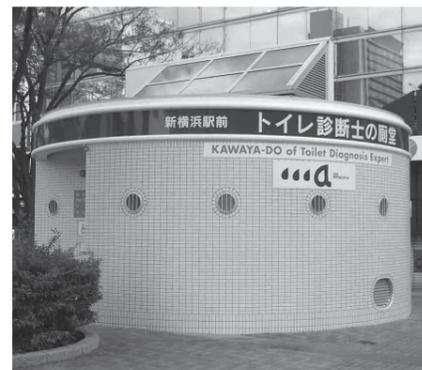
公共福祉サービスの目玉

駅前のトイレから公園のトイレまで、いつでも誰でも使える公衆トイレ(公衆便所)は、いざ鎌倉(いざトイレ!)の時に利用者にとって大変ありがたいものである。だからこそ公衆トイレは、自治体の公共福祉サービスの目玉ともなるのである。

それは、逆にいえば、いつでも、清潔できれいに維持管理できているかが問われるのである。これを達成するのが公衆トイレのメンテナンス力である。

公衆トイレの設計から建設に関しては、どちらかといえばデザインや機能面を重視しているが、実際の運用に至っては、日常清掃や定期管理のメンテナンス面を無視してはならない。放置された公衆トイレに満足できる人はひとりもないからである。

そこで、公衆トイレメンテナンスの



▲診断による定期管理が実施されているトイレ

基本的な事例からできる限り、記述し列記する。

無臭空間の実現

公衆トイレを利用して、まず気付くのが、臭気の度合いである。アンモニア臭から下水臭に至るまで、嫌悪感に満ちた臭気に溢れていれば「できれば使わずにしばらく我慢するか、使ったとしてもできる限り短時間で外に出たい」と考えるであろう。

快適なトイレの絶対条件の一つは、臭気のない無臭空間であること。このことは民間が運営する公共的トイレでもまったく同様である。

臭気と汚れは同一体

さて、汚れの問題は多様であるが、簡単に目視できる汚れと、陰に隠れて見えにくい汚れとがある。この汚れと臭気は決して別物ではなく、同一体のものである。例えば、トイレの尿石はカルシウム化合物という汚れであるが、放置された尿石からアンモニアなどの臭気が発生する事実からも、まさに、汚れと臭気は、同体異名そのものである。

現実に、公衆トイレの臭いは尿石によるものが第一である。したがって、小便器や大便器とその周辺に付着する尿石を決して見逃してはならない。固着した尿石は酸系洗剤で剥離除去するのである。もちろん、主成分は塩酸であるが、腐食性の高い薬剤であるので防腐などのキレート剤を同時使用し(劇毒物指定品目



▲3点比較式ニオイ袋法(臭気の採取)

尿石除去剤)作業中の中和処理を確実にしたあとで排水処理をすることが必要なのである。

ソフトスケール対策

昨今の節水型小便器では、洗浄水をきわめて絞り込むため、尿石を形成する前に、ソフトスケールとしてトラップや排水管の中に滞留し、排水不良が発生、トラップやパイプの栓塞状態を及ぼすことになる。

このようなソフトスケールが発生した時の対処としては、強アルカリ系洗剤(劇毒物特定品目)で洗い流し、衝撃波排水管清掃機器やラバーカップなどの物理的衝撃で押し流す・引き出す方法も有効である。

基本は予防型管理

公衆トイレの維持管理においては、毎日の日常清掃は必須であるが、汚れない・臭わない予防管理の手法を仕組みの中に導入すべきである。尿の跳ね返りによる飛散した汚れは日常清掃で落とせるが、目視の難しい陰の部分に付着し堆積してゆく尿石などについては、予防措置を取る

ことが賢明である。なぜなら、尿石の固着に対しては強酸(劇物)薬剤を使用することで、配管材への悪影響や作業者の安全対策等を慎重に考慮する必要があるからである。健康や環境に安全な尿石固着防止剤を使用することで、配管材などへ余計な負荷をかけず、長寿命化することも可能となるのである。

PDCAの実行

さて、どこの公衆トイレも原則的に24時間解放である。そのトイレに絶対に必要なものは、明るい照明と水栓器をはじめとする衛生機器システムの正常な稼働である。時には便器や手洗い洗面器に異物を落として、そのまま流してしまうことで、トラップの曲がり部分につっかり、汚物や紙が蓋となって全く流れきらない状況に陥ることもある。設計・施工時の新築状態では考えられないような事故が、日常のトイレ使用に付いてまわるのである。

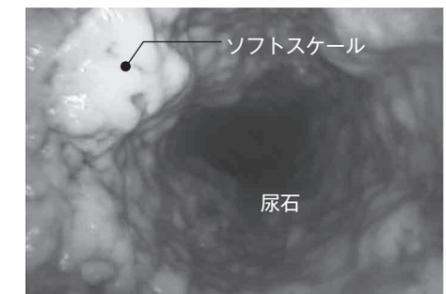
以上の事柄から、公衆トイレの日常清掃は、仕様書に定められた方法で毎日行うことが重要である。

トイレ診断の実行

公衆トイレについては、毎月もしくは隔月で、日常の清掃業務とは別に定期訪問し、トイレ診断を実行することで、トラブルを未然に防ぐ、予防メンテナンスを併用すればよい。現在の人員で不足気味であれば、民間では、厚生労働省認定社内検定トイレ診断士の資格を持ち、定期診断に長けた業者もいる。トイレ診断で発見された課題は共有され、その処置と再発防止策が講じられる仕組みを構築することで、定期診断ごとに、維持管理の精度は高くなっていくのである。(日本トイレ協会 理事 山戸里志)



▲内視鏡による排水管確認作業



▲排水管の内部映像



[出典] トイレ学大辞典 (144頁~145頁より転載)
発行所: 柏書房
発行: 平成27年8月21日